



年間第 30 主日 (マルコ 10:46-52)

身近な声を耳障りに思っていないか

年間第 30 主日を迎えました。年間の主日は第 33 主日までで、その次は王であるキリスト、その次は待降節ですから、年間の主日もあと少しだなあと感じます。皆さんも典礼暦の季節感が感じられる人になってもらえると嬉しいなあとと思います。

季節感と言えば、野球もいよいよ締めくくりの日本シリーズですね。今週の説教は準備するのに苦労しました。なぜかというところ、ここ数日耳鳴りがして、説教の準備に没頭できなかつたからです。どんな耳鳴りかというところ、一日中、「がんばれカープ」という広島カープの応援歌が鳴り響いていて、どうしてもその耳鳴りを追い出せなかつたのです。

原因は、日本シリーズに広島が出ているからなのですが、どうやったら耳鳴りが解消できるのかなあと考えていたら、広島の人から連絡が来まして、「28 日試合を見に行きませんか？」と誘いを受けたのです。思い切って出かけることにしました。

花粉症の人が花粉を混ぜた米を食べて病気を治す治療法があるそうです。私の耳鳴りも、マツダスタジアムで「がんばれカープ」を歌えば、ひょっとしたら治るかもしれない。藁にもすがる思いで耳鳴りの治療に行ってきます。月曜日の朝ミサは広島司教館でささげてきます。

福音朗読はバルティマイのいやしの物語です。バルティマイはイエスが道を通られると聞いて、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」(10・47)と叫びました。人々が黙らせようとしませんが、構わず「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫びました。

それだけ叫び声を上げれば、多くの人の耳に声がこびりついたと思います。耳鳴りがするほどだったかもしれない。耳障りな音を排除したい人もいたはず。もうこの段階になると、バルティマイの叫びは「人の声」ではなくて「やかましい音」と受け取られていたのでしょうか。「やかましい音」であれば排除したいと思って当然です。

イエスはどうだったのでしょうか。みんなと同じくバルティマイの叫びが、耳につくと感じたでしょう。けれどもイエスはバルティマイの叫びを拾い上げてくださいました。私たちも必死に声を上げて願いを取り上げてもらう様子は想像できると思います。頭では分かっても、自分と違う人が叫びを上げた時には、邪魔に思ったり、面倒に感じたり、不必要だと切り捨てたりするわけです。

なぜ人は、自分には関係ないと思ったら「目が見えるようになりたいのです」(10・51)という切実な願いも押しえつけてしまうのでしょうか。目が不自由な人が「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んでいれば、「目が見えるようになりたいのだな」と想像できるはず。それなのになぜ、イエスに「この人を面倒見てあげてください」と案内することができないのでしょうか。

きっと、自分のことで頭がいっぱいだからです。イエスに群がる群

衆は、自分が何か恩恵を受けたい、自分の必要を満たしてもらいたいと、自分のことで頭がいっぱいなのです。バルティマイの叫びは、もっともだけれども、やはり自分とは関係がないので、耳に入れたくないし、耳鳴りがするほど叫ぶのが面倒で、排除しようとしたわけです。

少しでも、「この人の願いは私の願いでもある」と考えることができたなら、最初から優しく接して、イエスに取り次いでもらえるようにみんなで努力したでしょう。始めから、「あの男を呼んで来なさい」「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」と、バルティマイをイエスのところに連れて行ったでしょう。

どうしたら、「この人の願いは私の願いでもある」と考えることができるのでしょうか。そのためには、自分のことで頭がいっぱい、自分のことで精一杯、そんな生き方を少し変えることだと思います。そしてしばしば、自分のためだけの人生から生き方を変えるきっかけは、自分の努力ではなく、出会う人が与えてくれるのです。

司祭館に住まわせてもらう主任司祭が「自分のことで精一杯」という生き方を横に置くきっかけを与えてくれるのは司祭館のチャイムを鳴らす人たちです。日によって、時間によっては自分のことで頭がいっぱいの時もあります。ついこの前も、純心高等学校2年生の黙想会をお願いされました。40分くらいの話を3回分用意するとすると、何を話すか考える、どう話すか考える、話の原稿を起こしておく、準備は相当必要になります。

それでも司祭館のチャイムは鳴るわけです。玄関に行って対応します。また机に向かい、続きを考えていると別の要件でチャイムが鳴ります。たまには机に向き直ったと思ったらチャイムです。けれども一つ一つの要件は、私を必要としているわけです。

こんなことですから、心の持ち方を変えなければ続きません。「この人の願いは、私の願いでもあるのだ。」私の願いなのですから、どんなにチャイムが鳴ろうとも、応対すべきです。チャイムを鳴らす人は、一人一人、願い事があるわけです。「何をしてほしいのか」と聞いてあげること、きっと司祭という立場でイエスに従う人になれると思います。

最後に、先に行くイエスが向かう場所を確認しておきましょう。イエスが向かうところ、それは十字架です。「この人の願いは、私の願いでもある」手を差し伸べてあげること、私たちは十字架上で命をささげてくださいるイエスにより近づくのです。

イエスを見物について行くのであれば、自分のことで精一杯で行ってもよいでしょう。けれども私たちがついて行くイエスは、ご自分の罪ではなく、わたしたちの罪を背負うためにエルサレムに向かわれるのです。「この人の願いは、私の願い」ずっと同じ思いで、十字架に向かっておられるのです。私たちも、日々誰かに手を差し伸べることで、イエスの歩む道を歩くことができます。